

二〇二五年・井波絵解きフォーラム

南砺の聖徳太子信仰と 絵解き文化を探る



6月6日(土)

13時30分-16時30分

**井波総合文化センター
メモリアホール**

富山県南砺市山見1400 ☎0763-82-5885

● プログラム ●

講演◆聖徳太子絵伝入門

東京国立博物館 主任研究員 沖松健次郎

聖徳太子絵伝 絵解き

名古屋大学大学院生

シアター上映◆VR作品

『国宝 聖徳太子絵伝』

6月7日(日)

13時30分-16時30分

**井波別院瑞泉寺
太子堂**

富山県南砺市井波3050 ☎0763-82-0004

● プログラム ●

講演◆法隆寺と井波を結ぶ信仰の道

——南無仏太子と絵伝の世界

名古屋大学 阿部泰郎

講演◆聖徳太子絵伝鑑賞の場

東京国立博物館 研究員 土屋貴裕

太子絵伝 絵解き説法

妙蓮寺住職・横浜別院輪番 竹部俊恵

井波別院 瑞泉寺 列座 吉澤孝昭

座談会◆太子伝会フォーラム

ゲストスピーカー

富山県立大学 原口志津子 ほか

入場無料
来聴歓迎

主催：名古屋大学文学研究科附属人類文化遺産テキスト学研究センター

共催：東京国立博物館  真宗太谷派 井波別院 瑞泉寺／真宗太谷派 高岡教務所

協力：凸版印刷株式会社 協賛：北日本新聞

科研費
KAKENHI

お問い合わせ先

◆真宗太谷派 井波別院 瑞泉寺 Tel:0763-62-0004

◆名古屋大学大学院文学研究科附属人類文化遺産テキスト学研究センター
Tel:052-789-3509 e-mail:cht@lit.nagoya-u.ac.jp



「絵解き」は、決して国際的に行われていた伝統技法であり、映画やテレビ以前のメディアとして代表的なものでした。アジアでは仏教と深く結びついて、有教無導の有力な方法として伝承や教理を説くために用いられました。日本においても、古代以来の聖徳太子の絵解きを始めとして、寺社縁起や霊験の物語あるいは地獄極楽の説法など、民衆に根ざした語りや説きとして継り受けられておりました。とくに浄土真宗は、宗祖親鸞上人の御絵伝を覚上人が制作されたように、民衆と深く結びついて絵解きによる教化を行っていたのです。

その伝統は、ここ越中砺波地方に今も息づいております。その代表が、井波別院瑞泉寺において毎年夏に催される太子絵会の聖徳太子絵解き説法です。瑞泉寺は、本願寺五世・妙如上人が北陸巡遊教化の拠り所として開かれた名刹です。学僧として令名高かった上人が、後小松天皇から賜った南無仏太子像と共に巨勢金園筆と伝えられる八幅の聖徳太子絵伝を、太子像の御開帳にともなうて掛け展げ、太子の仏法流通の御生涯を悉く説きあかす絵解き説法が、七月下旬、一週間にわたって行われます。江戸時代の平賀、瑞泉寺十二代真願上人（桃花）の代に始められた太子絵会には、二百七十年以上も続く砺波の夏を代表する伝統行事となっています。

親鸞上人も深く信仰された聖徳太子の伝記を絵にあらわした太子絵伝は、古代に太子が創建された四天王寺や太子の道跡である法隆寺に壁面や障子絵として描かれ、絵解かれていました。中世に絵伝は掛軸画となって、とくに真宗の門徒たちによって太子像と共に諸国に持ち運ばれ、仏法の伝来と念仏の利益を説き広めるために用いられたのです。いまも各地に多くの太子絵伝が遺されていますが、現在にその絵解きを伝えるのは、井波別院瑞泉寺ただ一箇所のみです。

日本における仏教の歴史と文化形成を象徴する聖徳太子の世界を、絵伝とその絵解きからあらためて再び照らしだし、それが果たした役割を問うお祈りを、真宗の絵解き文化を伝えるここ井波の地において願います。その源流をなす、法隆寺の最古の太子障子絵伝を保存・研究する東京国立博物館の研究者に、最先端の聖徳太子絵伝の研究成果を披露いただくと共に、最新のデジタル映像による「聖徳太子絵伝」の世界を御覧いただけます。また、伝統ある別院の絵解き説法の実演と、新たに大学生により試みられた絵解きを紹介しながら、地域における伝承文化の継承について語り合うフォーラムを開催します。

瑞泉寺 聖徳太子絵伝（重要美術品）

第一幅



第五幅



第二幅



第六幅



第三幅



第七幅



第四幅



第八幅



＊当日は会場にて本絵伝のカラー複製解説（村松加奈子編）を配布予定。

講演者プロフィール

阿部泰郎 あべ・やすろう【総合司会】
1953年横浜生まれ。名古屋大学大学院教授。同文学部研究科附属人間文化遺産学研究所センター長。中世宗教文芸研究。著書『源氏の皇位』『中世日本の宗教テキスト体系』ほか。学生時代に井波別院の法会と絵解きに出会い、以来毎年通い続けている。

沖松健次郎 おきまつ・けんじろう
1972年東京都生まれ。東京国立博物館調査研究課主任研究員。専門は仏教美術史。主な論文に「空海と高僧雲南」(『空海と密教美術展』図録)、「孔雀明王の御縁果をめぐって」(『MUSEUM』618号)などがある。

土屋貴裕 つちや・たかひろ
1979年千葉県生まれ。東京国立博物館特別展覧会研究員。専門は中世仏教史。主な論文に「聖徳のおもかげー『聖徳太子御絵伝』元絵試論一」(『図像研究』竹井舎)、「『天狗草紙』の作図工例」(『美術研究』403号)などがある。